

最先端の環境技術

川崎市内から85社 きょうまで国際展

「川崎国際環境技術展2011」が16日、川崎市中原区のとどろきアリーナで始まった。118企業・団体の219ブースに最先端の環境技術・製品が

出展された。17日までで環境問題や省エネに関する講演などもあ

る。開会式にはアジアを中心に6カ国・地域の大使ら10人も出席。阿

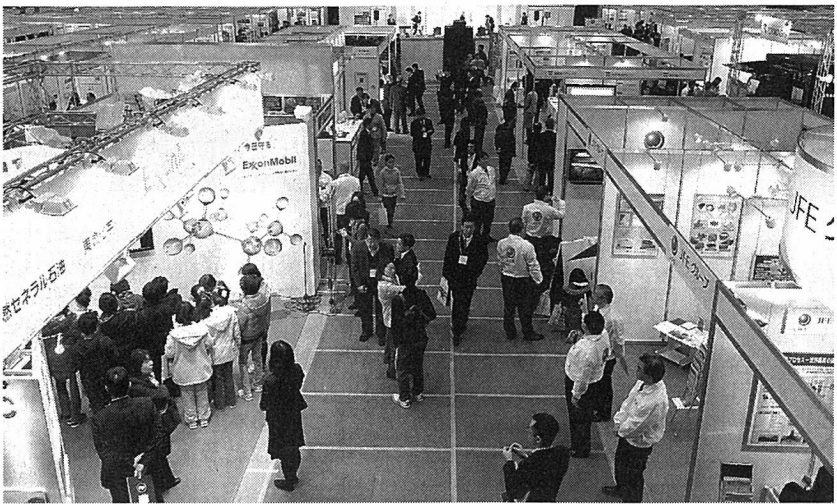
部孝夫市長はあいさつで「川崎で培われた環境技術やノウハウを国内外に移転することで持続可能な社会づくりに貢献する」と狙いを訴えた。

今年で3回目です。市内からは中堅・大手合わせ85社が参加。市内の小学校のほかネットで廃食油から作ったせっけんを販売するNPPO

法人・川崎市民石けんプラント(同市川崎区)や建設現場で発生する廃木材のチップを燃料に今月1日から発電を始めた川崎バイオマス発電(同)などが出展した。遊具製造から風呂や水泳プール向け循環ろ過装置の中堅企業に成長したショウエイ(同市中原区)もブースを並べ、佐藤優一係長は「ろ過装置で省エネ・省コストと云ってもまだ浸透していない。この機会に多くの人に知ってもらいた

い」と話していた。また日本貿易振興機構(ジェトロ)が招いたアジア欧米6カ国の11社と出展企業の商談コーナーもあり、2日間とも予約いっぱい盛況という。

【塩谷英明、写真も】



118企業・団体の219ブースが並んだ川崎国際環境技術展